

八重垣神社祇園祭フォトコンテスト、総評・入賞作品講評

◆総評

昨年より応募作品が大幅に多く、194点もの作品が寄せられました。喜ばしい限りです。また、昨年にも増して優秀な作品が多く寄せられ、審査に苦勞致しました。5人で厳正な審査を行いました。このコンテストを通じて主催者として観光にも使え、写真技術向上にも寄与できるようにと考えておられます。そんな視点で審査を行っています。

寄せられた作品を見ますとどうしても神輿を中心にした作品が多いのですが祭りは多くの人達がかかわって成り立っています。違った視点から祭りの姿を写し撮ってもいいでしょう。応募料は無料です。今後はもっと若い方や女性の応募が増えることを願っています。市民の写真コンテストに益々なるように願っています。

写真審査はプリントの良し悪しも大事になります。綺麗なプリントですと作品から受ける印象が強くなります。シャッターを押してから綺麗なプリントになるまで気を抜かないで作品につなげていくことが大事です。カメラ店で印画紙を使ったプリントは綺麗です。画像をトリミングされたのではないかという作品も見られました。画像が荒れてきますので最小限になるようにトリミングをします。写すときには画素数を高くして写すようにし諧調豊かな作品にしていきます。水かけ作品が多く寄せられましたがシャッタースピードが遅い作品もありました。ISO感度を高くして写すことでシャッタースピードが速くなります。

作品づくりは作品から何を写したかったのか、オーラが感じられる、物語が感じられるような作品がより生まれることを願っています。

◆優秀作品講評

最優秀賞「みこしは気合いだ」 青柳 幹市 様

祇園祭の熱気が画面から弾き出てくるように感じさせることが出来た作品です。人物の表情がとてもいいです。作品から強く動きを感じさせることで楽しく作品を見ることが出来る、引き寄せられる作品です。祭りが好きで好きでたまらない、そんな雰囲気を感じる作品でもあります。スナップ写真は人物の表情が豊かであることがひとつの大きな要素です。動きのある瞬間を写し撮ることで人々が祭りをおおいに楽しんでいる光景にもつながってまいります。



夜の撮影ということもありフラッシュを使ったこと

で顔の汗を強く出すことが出来ました。被写体に思い切って近づいて写したことで作者の思いが伝わる画面にもつながりました。作品は何を写したいかが大事になります。神輿をわずかに入れながら人物を中心に画面を作ったことが成功しました。そこに作者の技量のの高さを感じます。

優秀賞「笛吹く女」 鈴木 義信 様

望遠レンズで思い切って横笛を吹いている女性の真剣な表情と美しさと引き出しました。作品から凜とした静けさを感じさせ、音色も聞こえてきそうな感じもします。左からの光線状態で写したことで作品を立体的に見せることにつながっています。写真は光です。

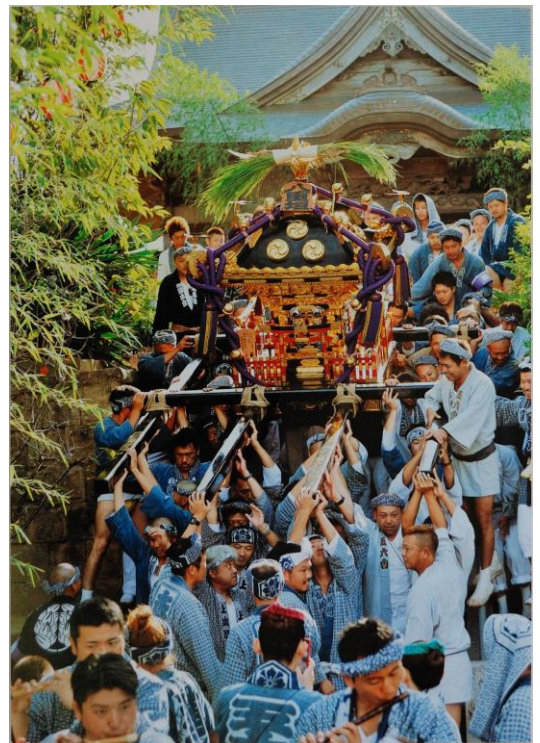


人物（生き物）撮影では目にピントを合わせるのが基本です。目にピントが来て作品の強さを引き出すことが出来た作品です。たくさんいる人達の中からこの女性に魅力を感じ、気づいてポイントを絞って写したことが成功しました。作品づくりの中で気づいて写す、気づくかどうか大事になります。気づきは多くの経験からより気づきのある被写体を見つけ出すことにつながってくるでしょう。

優秀賞「宮出し」 片岡 政昭 様

神を乗せた神輿を多くの人に支えられながら階段を下りて来る姿を望遠レンズで写し撮った迫力ある作品です。事前に撮影場所を捜して写されているように感じます。満足いく作品にするには撮影場所は大事な要素のひとつです。事前調査が大事になります。

綺麗な露出で、シャープなピント、綺麗なプリントにされた作品です。大変気持ちの良い作品でもあります。この作品はすぐにでも何かに使いたい作品のひとつでしょう。



優秀賞「祭万歳」 川口 喜夫 様

眼鏡をかけ鉢巻をした男性の表情が実にいいです。両手を広げ祭りを楽しみ喜んで参加している表情がいいです。神輿を担いでいる人達の表情もいいです。ポイントになっているところはシャープに撮れているのですがやや画面全体にもっとシャープさが出ていると良かったようです。作品の力強さがもっと出た作品になってきます。何が原因か良く分かりませんが被写体ブレのようにも感じます。もっとISO感度を高くするか絞りを絞って写し被写界深度を深くしたいところです。望遠レンズの効果は何であるかを熟知された方であると推測いたします。



優秀賞「祭のヒーロー」 竹尾 喜久夫 様

少年の表情が豊かで、動きのある印象的な作品です。両手を広げ、飛びあがるように踊っている瞬間を写し撮りました。スナップは早撮りともいわれ、一瞬の姿を逃さずに写し撮りました。ただ気になりますのが背景の大人の人達の扱いです。大人の人達を入れるとやや説明的な作品につながります。少年の存在が弱く感じられてきます。作品は何を写したいかが大事になります。少年だけに絞って画面を作ることも考えてみます。撮影現場の空気感からこの画面になったのかと思いますが・・・。スナップは瞬間ですから難しい注文かもしれませんが向こうから少年が来ることが分っていたら低い位置になって構えておき、少年を低い位置から写すことで少年の踊っている姿を高さを感じさせ、より動きを感じるようになったでしょう。少年を目線で写すことにもつながり、より豊かな表情にもつながったと考えます。少年の後ろには大人の人達の足元が入り祭りの光景を出すことにもつながります。



優秀賞「皆んなが主役」 寺田 義明 様

高い位置から神輿を入れながらたくさんの人達が万歳をしている光景を写し撮っています。良いシャッターチャンスで写し撮りました。祭りに参加している人達の表情が実にいいです。カメラのほうを見ているので、正面から写していることでより表情が豊かに撮ることにつながりました。ひとりひとりの祭りに参加した喜びを感じさせることにつながっています。



ただプリントの仕上がりの色合いが今ひとつです。写真はプリントが良いことも非常に大事になります。気を抜かずに最後まで大事にして作品づくりを！カメラ店に依頼して印画紙でプリントされてもいいでしょう。

審査員特別賞「いざ祭りへ」 田村 俊雄 様

一声かけてから、ゆっくりとこの男性と心が通じ合ったところでシャッターを切られました。作品から味わいを感じます。素直に写すことで写す人の人柄と被写体が持っている人間的な魅力を引き出すことが出来た作品です。構えないで写した作品です。よし撮るぞという作品も悪くないのですが、自然さが伝わる作品は長く見ても飽きない作品につながってきます。スナップ写真は時には時間をかけてから写すことが大事になります。



右上側には祭りの提灯もそっと入れ、作品の脇役としての働きを持たせた作品です。背景にも気を配って写し撮った味わいのある作品です。作品づくりでは背景によって主役をどう見せるかにつながってきます。メインだけでなく背景についても気をつけて撮影することが大事です。それを教えている作品です。

◆入選作品



「揃い踏み」松本 重信 様



「妙技」増山 成男 様



「後姿も粋」鈴木 義信 様



「男の心意気」徳地 重男 様



「熱い夏」御園生 一男 様



「水だ祭りだ！」菅澤 千照 様



「宮入り」大澤 勝臣 様



「興奮の水掛け祭り」志賀 正義 様



「小さな主役」井上 久雄 様



「ヨォ～後継者誕生」梅澤 秀年 様

◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944年山梨県生まれ。

1962年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、イギリスに駐在。

2001年ニコンカメラ販売(株)(現(株)ニコンイメージングジャパン)に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真通信添削指導などを務める。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001年7月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006年10月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数

